



NatCon (JETAA アメリカ地域会議) 4年ぶりの現地開催

(一財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所 所長補佐 村田 直之 (山口県萩市派遣)

NatCon の概要

JETAA (JET プログラム経験者の会) によるアメリカ地域会議 (NatCon) は、毎年1回9月に開催され、全米から19のJETAA支部代表、米国、カナダ、ジャマイカ、トリニダード・トバゴの国代表に加え、US JETAA、JETAA Internationalなどの関連国際組織の代表者が参加します。開催地は毎年変わり、当該地の支部がホストとなって企画・運営を行います。毎年開催にあたりテーマを定め、そのテーマに沿って、国際的に活躍するJETプログラム経験者による基調講演や各団体のビジョンや目的・機能の再確認、ワークショップなどが3日間かけて行われ、各支部が運営にあたって抱える課題やベストプラクティスを共有することで、JETAAの持続的な発展につなげることを目的としています。



参加者による記念撮影の様子

4年ぶりの現地開催

今回のNatConは、2023年9月8日から10日にかけてミドルベリー大学の大学院である、ミドルベリー国際研究所 (Middlebury Institute of International Studies) で開催され、4年ぶりの再会を喜ぶ参加者の様子が印象的でした。会期中は、「Reimagining Sustainable

Career Pathways」をテーマに掲げ、基調講演では元米国大使館職員の方の Karen Kelley 氏が、日本滞在時に、各地域を訪問するにあたって、最も頼りになった存在が現地のJETプログラム参加者や、JET経験者の存在であることなど、JETプログラムが日米間の国際交流に果たすその存在価値について語った後、「日本での生活を体験したJET経験者自身が多様性の代表であることを自負すること、また自身の経験を伝えること、記録を残すこと、日米関係の案件に携わることについて積極的に取り組むことで、JETAAの活動を通じて多様性を認める社会を実現すると同時に、自身のキャリア形成にもつながっていく」と締めくくり、会場が納得感に包まれる様子に、JETAAの国際交流の担い手としての重要性を感じました。



基調講演の様子。左が Karen Kelley 氏

ワークショップの様子

ワークショップは、「関係の構築」「持続性」「人材育成」という3つのトピックスごとに会場を分けた上で、3部構成となっており (1部45分)、支部代表者がベストプラクティスの紹介や課題提起を行いました。新型コロナウイルス感染症による影響から、オンラインツールを活用したベストプラクティスが多く紹介される一方で、この間に代表の交代が行われた支部では、現地開催のノウハウが失われたことなどが課題提起されたことに対し、参加者から多くのアドバイスが寄せられる様子に、JETAA全体がNatConを通じて、各支部間や関係団体で支え合いながら活動を続けていることを知ることができました。また、代表の使命感が強く、負担が偏った結

果、「燃え尽き症候群」に陥るケースについて課題提起される会場が複数ありました。またそれに対し、代表が急ぎょ離脱することのリスク分析や、メンタルケア、負担の分散ノウハウなどを、ベストプラクティスとして共有している様子に、活動への真剣な姿勢を感じました。



ワークショップの様子

モントレイ国際大学院

会場となったモントレイ国際大学院は、国際問題解決、語学研究などで米国でも有数の教育機関ですが、開催担当支部である JETAA Northern California と密に連携していることから、会場が無償で提供されていました。加えて、同校の研究生によるキャンパスツアーも行われました。大学院には 50 か国の学生が在籍し、世界各国から集められた書籍を所蔵する図書館や、最新のインターネット環境、エコを意識した学生食堂、手厚い福利厚生など、学生が学んでいく上での環境面が充実しているうえ、地域貢献活動にも積極的に取り組んでいます。日本語学研究室では、地元の子どもたちへの教育プログラムにあたり JETAA と連携しているため、参加した子どもたちが幼少期から JET プログラムの存在を知り、将来のキャリア展望に結びつけていることを聞き、JETAA の活動の幅広さや、その存在を支える関係機関の存在があることを知りました。



屋外でもオンラインで受講できる環境が整っている

モントレイと日本

モントレイ市には、明治時代後期に多くの日本人が移住し、第二次世界大戦までの期間、現地の水産業を活性させ、大規模なコミュニティを形成した歴史的経緯があります。NatCon では、日系人団体の運営する歴史資料館を訪れ、当時の話を聞くことができました。第二次世界大戦後は、その多くが帰国する中、残った日系人の中から、米国連邦政府で活躍する人物なども輩出しており、米国の移民を受け入れる文化や、多民族国家としての強さを感じることができました。



祭りで使われた法被

おわりに

4年ぶりの現地開催に喜ぶ参加者の様子や、レセプションの時間も含め、参加者が会期中熱心に議論する姿が印象的でした。クレアは、本部から北野参与を含め、ニューヨーク事務所の所長以下 4 名が全日程に参加し、直接各支部代表者と意見交換を行えたほか、USJETAA や、JETAAUSA、JETAA International といった関連団体の概要や国際的な活動内容を再確認できました。あなたのそばで活躍する JET プログラム参加者は、将来日米間の懸け橋となり、あなたの街の魅力を伝える伝道師です。その方々の任期中にできるだけ多くコミュニケーションをとり、日本の文化に触れていただき、街の魅力を伝えることが国際交流推進の第一歩となることでしょう。



開催地 JETAA メンバーとの記念撮影